

吹奏楽部が被災地「石巻」で演奏

東日本大震災の後、文京学院大学・短期大学の学生・教職員が次々と被災地に入り、瓦礫の撤去作業などに黙々と取り組んでいます。今回、石巻市の東北支援プロジェクト「Pride of Japan」思いをひとつに（主催＝同実行委員会、石巻専修大学）で、被災された方々に力強い音楽を届けるために率先して手を挙げた



演奏の最後に「きずな」を全員で合唱

のは、本学吹奏楽部のメンバーたちと教職員、同プロジェクト関係者です。

会場は、同プロジェクトの拠点となった石巻専修大学。演奏の前後には、文京生が子どもたちと触れ合い、沢山の笑顔に囲まれました。

8月20日の夜8時半、吹奏楽部の楽器を乗せたトラックと、吹奏楽部メンバー、教職員、同プロジェクト関係者を乗せたバスが本郷キャンパスを出発。一晩をかけて早朝、石巻市内に到着し、島田輝子理事長



今回のプロジェクト参加メンバー



子どもたちと触れ合う文京生

「マンス」などが繰り広げられ、寂しくなりました。午後に、いよぶ学吹奏楽部が登壇！

演奏の前後には、文京生が子どもたちを前に、絵本を飾った山田裕介さん（2011年外国語学部卒業）、現部長で指が子どもたちを前に、絵本の読み聞かせ、お絵かきや紙芝居にも挑戦。本学の卒業生・三瓶真代さん（人間学部卒業）も、自身の絵本「かいじゅうモウフのフワボン!!」を寄付して喜ばれました。帰京の時間になっても、文京生との傍を離れない子どもたちの思いを受け入れ、時間を延長して対応。今回のプロジェクトを通じて、吹奏楽部メンバー一同「子ども対応力」を発揮すると共に、「音楽の持つ力」を再認識。吹奏楽部が始まって以来の、最も熱く楽しい演奏を被災地に

らと合流後、バスで海岸側へ。大震災に続く巨大津波の爪跡も生々しい、あまりに悲惨な漁港の光景に、一時は同声を失いました。一瞬にして家族を喪い、家財を粉々にされた方々の悲しみを思いながら、一行は石巻専修大学へ。同大の芝生に応援団OBによるパフォー

を察知した市民たちが逃げ込んだ場所でもあり、多くの命が同大によって救われました。

吹奏楽部が練習中、舞台では、「若者たちによる応援メッセージ」「龍馬プロジェクトの政治関係者による応援演説」「石巻専修大・小川マキさん作曲の「きずな」を熱く楽しんで演奏を被災地に